

わくわく園だより (コドモン用) 2023年5月10日(水) No.5 文責: 牧野

◆ 「読み聞かせ」は小学校に入学してからも続けましょう!

小さいころにたくさん「読み聞かせ」をしてもらった子は、語彙数が増えて、言語力が高く、学校の成績もよい。そんなことからこども園では、毎日のように絵本の読み聞かせをしています。

ところが家庭では、字が読めるようになって「自分で読める本を見つけて読みなさい。」と子どもにお任せになってしまう傾向にあります。これはよくありません。文章全体の意味を理解して読み味わうためには、読み聞かせをしてもらう経験は、小学校低学年まで続けるべきです。なぜなら、拾い読み程度では、文字を読むことが精いっぱい、文章の理解まで至らないからです。読み聞かせをしてもらって話を聴くからこそ、筋やお話の世界を結び付けて考えたり、絵をより丁寧に見て文中の言葉と結び付けるといった思考ができるようになります。絵本の読み聞かせは大事です。

◆ 小学校入学までに何が必要ですか?

「小学校入学までにやっておかなければならないことはなんですか?」という質問がよくあります。

学校から宿題のプリントが出ます。1学年だと、かきかた(ひらがな)の練習です。ところが宿題はやっているが「自分から進んで勉強する」「勉強が終わるまで集中して取り組む」などの学習習慣については、3割強の子どもは身につけていないそうです。(ベネッセ調べ)

プリントを何枚もやっているから良しとする物量主義の学習感から脱却する必要があります。たとえば、文字の練習は、何回も繰り返し書いたからといってきれいな文字が書けるわけではありません。どこをどのように書くとバランスよくなるか気づかせることです。そうすると子どもは、今度はこの部分を工夫してみようというように取り組むようになります。そのした意欲を喚起することが大事です。学ぶことは、ワクワクすることであって、おもしろいことであり、人と分かち合いたくなるようなことです。このことを小学校に入る前のこども園では大事にしています。

■ 《医師からの警告》 スマホは現代のアヘンか?(老婆心ながら)

母親がスマホに夢中になり、子どもをほったらかしにして、子どもが重大な事態を招いてしまう事故や事件が後を絶ちません。子どもの「スマホ依存」をどうしたらいいかという議論ばかり目立ちますが、実は大人の「スマホ依存」はもっとやっかいです。スマホ世代の若い母親にみられる「スマホネグレクト」を見逃してはなりません。

「スマホネグレクト」の典型例は、スマホに夢中になっているときに子どもにぐずられ、無意識に怒鳴りつけてしまう、という行動です。スマホを一時も肌身離さず片手に持ち、家事や育児、あるいは友人とのLINEを忙しくこなす母親。もう一方の手で子どもをだっこしながらも目は食い入るようにスマホの画面を見つめている。見つめるべき対象はわが子の目ははずです。

母親が子どもの呼びかけに長期間反応しなくなると、子どもは泣いたり、ぐずったりしなくなり、しだいに笑わない、しゃべらない、無表情な子になり、孤立を好み、人間関係を築けなくなり、「母性愛の剥奪」あるいは「愛着障害」と呼ばれる状態になる可能性があります。

乳児の母親への愛着は、吸うこと、しがみつくと、後を追うこと、泣くこと、微笑むことなどの感覚・運動を通じて形成されると言われています。そのどれもがスマホが奪っているのです。

(歌舞伎町メンタルクリニック院長 倉本 英彦 牧野要約)

・・・5月15日(月)から20日(土)までの予定・・・

- 15日(月) 避難訓練(防火教室) *14日(日)「母の日」です。
- 16日(火) お集まり会 職員会議A
- 17日(水) 公開保育研究会(5歳児)CSこども園部会(育友会三役)
- 18日(木) 管内研究部会(端野:矢口副園長出張)
- 19日(金) 交通安全指導(路上) 職員会議B
- 20日(土) 春のロードレース



11日~12日 園長札幌出張(道幼稚園・こども園研究協議会総会出席のため)